

## 事業成果報告書

### 〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 北海道教育委員会
2. 取組の名称 : 北海道「小中一貫教育推進事業」  
※事業完了報告書表紙の「1. 事業の名称」と同じ名称になります。

#### 3. 事業の実績

##### (1) 事業のねらい

義務教育9年間終了時点での望ましい教育成果を強く意識した計画的・継続的な指導を行うモデル地域を指定し、取組の進捗状況の可視化や成果の効果的な普及を併せて行うことにより、本道全体での小中一貫教育の展開及び小中連携教育の高度化を図り、もって北海道教育の喫緊の課題である確かな学力の定着、望ましい生活習慣の確立に資するとともに、次期学習指導要領改訂で想定される教育活動の高度化の基盤を構築する。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体のねらいについて、簡潔に記載すること。  
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

##### (2) 事業の実施状況

市町村教育委員会が小中一貫教育を導入・推進する際の参考となるよう、北海道における小中一貫教育に関する状況等を整理し、基本的な考えとしてまとめた「北海道『小中一貫教育推進事業』成果のまとめ」を作成した。また、「小中一貫教育推進協議会」を設置し、本事業の検証改善を図る体制を確立した。さらに、国の「小中一貫教育等に関する実態調査」等を参考指標とした教職員、児童生徒、保護者アンケートの実施により、事業の成果と課題を把握するとともに、全国的な情報の収集、広報、啓発を随時行った。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の実施状況について、簡潔に記載すること。  
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

##### (3) 事業の成果

- ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議を開催した。
- ・協力市町教育委員会及び協力校の取組内容や進捗状況について共有し、本事業の成果と課題を明確化するとともに、取組の成果を広く普及することを目的として、「小中一貫教育北海道フォーラム」を開催した。
- ・北海道における小中一貫教育に関する状況等を踏まえ、基本的な考え方を整理した「北海道『小中一貫教育推進事業』成果のまとめ」を作成した。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の成果について、簡潔に記載すること。  
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

##### (4) 今後の取組予定

- ・全国学力・学習状況調査結果の詳細な分析及び「ほっかいどうチャレンジテスト」の経年分析による取組の検証
- ・本事業の取組の成果や課題を踏まえた小中一貫教育の一層の充実
- ・各種説明会や会議、研修会等の機会における「北海道『小中一貫教育推進事業』成果のまとめ」の活用
- ・先進的な取組事例の収集・分析、情報提供

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の今後の取組予定について、簡潔に記載すること。  
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

## 4. 取組 I の実績

## (1) 取組のねらい

協力市町教育委員会及び協力校において先導的な取組が推進されるよう支援を充実させる。また、道内の各市町村において小中一貫教育の導入・推進の参考となるよう、基本的な考え方を整理した資料等を作成し、成果の普及・啓発を図る。

※ [取組 I] において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。  
 ※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

## (2) 取組 I の実施状況 (平成29年度)

6月	・全国学力・学習状況調査問題等の分析 ・北海道における小中一貫教育に関する基本的な考え方等の検討
7月	・指導主事等による継続的な指導・助言
8月	
9月	
10月	・全国学力・学習状況調査結果の詳細な分析による成果、課題の把握 ・小中一貫教育に係る視察 (東京都、神奈川県、京都府) ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議の開催
11月	
12月	・教職員アンケート、児童生徒アンケート、保護者アンケートの実施・分析
1月	・「ほっかいどうチャレンジテスト」による学力の状況の推移の把握 ・小中一貫教育全国サミット参加 (京都府)
2月	・全道フォーラムの開催 ・「北海道『小中一貫教育推進事業』成果のまとめ」の作成、全道への周知及び活用促進 ・小中一貫教育説明会の開催 (「北海道『小中一貫教育推進事業』成果のまとめ」の作成、全道への周知及び活用促進)
3月	・今年度の成果と課題のまとめ ・啓発資料の作成

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。  
 ※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。  
 ※本事業から経費を支出した事項 (会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など) については、必ず記載すること。

## (3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北海道『小中一貫教育推進事業』成果のまとめ」の作成</li> <li>・全道フォーラムの実施による成果の普及</li> <li>・教職員アンケートの結果の向上 (肯定的な回答をした割合の増加)</li> <li>※「小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった」 (H27 : 56.3% → H29 : 82.7%)</li> <li>※「小・中学校共通で実践する取組が増えた」 (H27 : 53.4% → H29 : 86.7%)</li> <li>※「小・中学校の指導内容の系統性について教職員の理解が深まった」 (H27 : 48.1% → H29 : 80.2%)</li> <li>※「上級生が下級生の手本となろうとする意識が高まった」 (H27 : 44.2% → H29 : 77.8%)</li> <li>・児童生徒アンケートの結果の向上 (中学校進学を不安に思っている児童の割合の減少)</li> <li>※ 9項目の平均 (H27 : 36.1% → H29 : 31.1%)</li> </ul>
---

※ [取組 I] において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。  
 ※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

## (4) 今後の取組予定

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査結果の詳細な分析及び「ほっかいどうチャレンジテスト」の経年分析による取組の検証</li> <li>・本事業の取組の成果や課題を踏まえた小中一貫教育の一層の充実</li> <li>・各種説明会や会議、研修会等の機会における「北海道『小中一貫教育推進事業』成果のまとめ」の活用</li> <li>・先進的な取組事例の収集・分析、情報提供</li> </ul> |
|--|

※ [取組Ⅰ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

## 5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	白糠町教育委員会	
Ⅱ-2	中標津町教育委員会	
Ⅱ-3	当別町教育委員会	
Ⅱ-4	旭川市教育委員会	

※ 必要に応じて、適宜、行を追加すること。また、通し番号は、Ⅱ-1、Ⅱ-2、…とすること。

## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－１

1. 市町村教育委員会等の名称 : 白糠町教育委員会

住所 : 北海道白糠郡白糠町西1条南1丁目1番地1

代表者職・氏名 : 白糠町教育委員会教育長 板谷 聖一

2. 取組の名称 : 白糠町「小中一貫教育推進事業」

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

本町が実施している「ふるさと教育」の「学力のびのびプラン」の充実・発展のため、教育課程の編成手順を取りまとめた「小中一貫校ロードマップ」及び「小中一貫校ステップアップシート」に基づき、域内の全ての小学校・中学校において、小中一貫教育を実施する。具体的には各学校において義務教育9年間を見通した各教科等の教育課程を編成するとともに、新たな教科「ECタイム（仮称）」を創設し、小学校第1学年から「英語」と「中国語」の指導を系統的に行う。また、小学校・中学校の同一地域内の教師が教育課程編成のため研修を重ねる中で、異校種の学習内容、指導方法、学習規律、学習方略、児童生徒の実態等を共有し、教師一人一人の指導力を高め、児童生徒の学力・体力向上を図る小中一貫教育を推進する。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小中一貫校ロードマップ」及び「小中一貫校ステップアップシート」に沿った取組の実施（～通年）</li> <li>・各学校区における9年間を見通したカリキュラムの試行（～通年）</li> <li>・各学校区における乗り入れ授業の実施（～通年）</li> <li>・各学校区における小中合同研修の実施（～通年）</li> <li>・全国学力・学習状況調査の自校採点および分析</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議の開催（7/11、白糠町役場、参加者11名）</li> <li>・大学関係者（白糠町小中一貫教育アドバイザー）、釧路教育局の指導主事による指導助言</li> <li>・白糠地区小中一貫教育校開設準備委員会の開催（7/12、白糠中学校、参加者13名）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査の結果分析並びに課題の精査と対応についての検討</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進地視察の実施（9/24～27、福井市ほか、参加者5名）</li> <li>・白糠地区小中一貫教育校開設準備委員会の開催（9/15、白糠中学校、参加者14名）</li> <li>・白糠町立庶路学園開校に向けた保護者説明会の開催（9/27、庶路小学校、参加者80名）</li> </ul>

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席（10/11、札幌市、参加者2名）</li> <li>・白糠地区小中一貫教育校開設準備委員会の開催（10/26、白糠中学校、参加者13名）</li> <li>・白糠地区小中一貫教育校についての保護者説明会の開催（10/31、白糠中学校、参加者80名）</li> <li>・参考図書購入、協力校への配布（8冊）</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庶路中学校公開研究会の開催（11/2、庶路中学校）</li> <li>・庶路・西庶路地区義務教育学校開校準備委員会の開催（11/7、庶路小学校、参加者16名）</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議の開催（12/18、白糠町役場、参加者15名）</li> <li>・大学関係者（白糠町小中一貫教育アドバイザー）、釧路教育局の指導主事による指導・助言</li> <li>・教職員アンケート、児童生徒アンケート、保護者アンケートの実施（道教委との連携）</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進地視察の実施（1/8～11、廿日市市ほか、参加者6名）</li> <li>・小中一貫教育全国サミットへ参加（1/24～27、京都市、参加者1名）</li> <li>・茶路地区小中一貫校開設準備委員会（1/30、茶路小中学校、参加者10名）</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準学力検査（CRT）等の結果分析並びに課題の精査と対応についての検討</li> <li>・第3回白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議の開催（2/7、白糠町役場、参加者11名）</li> <li>・大学関係者（白糠町小中一貫教育アドバイザー）、釧路教育局の指導主事による指導・助言</li> <li>・茶路地区小中一貫教育校についての保護者説明会の開催（2/8、茶路小中学校、参加者29名）</li> <li>・小中一貫教育北海道フォーラムへ出席（2/16、札幌市、参加者15名）</li> <li>・庶路・西庶路地区義務教育学校開校準備委員会の開催（2/22、庶路小学校参加者15名）</li> <li>・本年度のまとめと課題整理並びに来年度の取組について</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実績報告書等の作成、提出</li> <li>・義務教育学校新校舎への移転（庶路地区）</li> </ul>

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

## (3) 取組の成果

- ・全国学力・学習状況調査、標準学力検査（CRT）等の結果を分析し、課題と改善方策を明確にすることができた。
- ①全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間勉強するか」において、「1時間以上」の回答が、小学校第6学年では39.6%、中学校第3学年は40.7%と目標には届かなかったものの、各学校において9年間の発達の段階を考えた家庭学習の手引を作成したり、小、中学校において宿題の量や内容について共通理解を図ったりするなど、家庭での学習習慣定着に向けた取組が推進された。
- ②標準学力検査（CRT）において、小学校第5学年の平均正答率が小学校第4学年時よりも5%以上向上、中学校第1学年の平均正答率が小学校第6学年時よりも5%以上向上を目標とした小学校第5学年は小学校第4学年時より9%向上し目標を達成した。  
中学校第1学年は56%と小学校第6学年時より6%低下し、目標には届かなかったが、長期休業期間中の小中が連携した補充学習の実施など学習内容の定着に向けた取組が進んでいる。
- ・白糠町小中一貫教育カリキュラム編成会議等を開催し、白糠町小中一貫教育アドバイザーや釧路教育局の指導主事から指導助言をいただき、9年間を見通したカリキュラムを完成した。
- ・「白糠地区小中一貫教育校開設準備委員会」「茶路地区小中一貫教育校開設準備委員会」「庶路・西庶路地区義務教育学校開校準備委員会」を開催し、学校・保護者・地域・行政が一体となって「小中一貫教育」実施に向けた取組を推進することができた。
- ・白糠地区、庶路地区、茶路地区のそれぞれで小中一貫教育に関する保護者説明会を開催し、保護者や地域住民に対し「小中一貫教育」への一層の理解を図ることができた。
- ・先進地視察の実施等により多くの先行事例を学ぶことができた。
- ・白糠地区、庶路地区、茶路地区のそれぞれで、毎月1、2回の小中合同研修を実施し、小中で共通の学びのスタンダードや生活規律などについて検討するとともに、共通の研究主題に基づいて授業研究などを行った。
- ・各地区で作成したカリキュラムの試行実践を行った。（第5、6学年の中学校登校日、小学校の運動会に中学生がボランティアとして参加、長期休業中の中学校サポート学習に小学校教員が参加、中学校教員による乗り入れ授業、小学校学芸会での中学生の全校合唱披露など）
- ・町指定の研究校による公開授業を実施するとともに、授業研究を推進した。

※ [取組Ⅱ] において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。  
 ※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

## (4) 今後の取組予定

- ・平成30年4月から町内全域での小中一貫教育の実施
- ・9年間を見通したカリキュラムの実践と検証
- ・児童生徒の実態把握および成果と課題の整理
- ・公開研究会や学校ホームページ等による情報発信
- ・全道、全国に成果を発信するための「(仮称)ふるさと教育実践発表大会」の開催

※ [取組Ⅱ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。  
 ※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－２

1. 市町村教育委員会等の名称 : 中標津町教育委員会

住所	: 北海道標津郡中標津町 丸山2丁目2番地
代表者職・氏名	: 教育長 山田康司

2. 取組の名称 : 中標津町「小中一貫教育推進事業」

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

町内全ての中学校区への小中一貫教育の導入に向けた取組を推進するとともに、中標津町教育力向上推進委員会において、取組を検証し、義務教育9年間を見通した系統性・連続性を踏まえた学習指導等を充実するための体制整備や指導方法等について実践研究を行う。

また、市街地の3小学校で実施していた合同教育研究会を町内全ての小・中学校、義務教育学校に広げ、小・中学校の教職員が一堂に会して研究する機会を設定し、中標津町の教育力の向上と小中一貫教育の取組を推進する。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

6月	・第1回中標津町教育力向上推進委員会開催（今年度の取組について）
7月	・中標津町の小中一貫教育、ロードマップの作成
8月	・小中一貫教育研修会の実施（小中連携、一貫教育の推進に向けて） （実施場所：中標津小学校、参加対象者：教職員、保護者、一般住民） ・全国学力・学習状況調査の結果分析 ・第2回中標津町教育力向上推進委員会役員会開催 ・第2回中標津町教育力向上推進委員会開催（小中一貫校開校に向けたロードマップの検討等）
9月	・中標津町の小中一貫教育、ロードマップの修正
10月	・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席（札幌市） ・中学校区合同研修会実施
11月	・合同教育研究会の開催 ・道外視察研修参加者説明会開催 ・道外視察研修の実施（広島県呉市） ・第3回中標津町教育力向上推進委員会開催（道外視察研修の報告等）
12月	・教職員アンケート、児童生徒アンケート、保護者アンケートの実施（道教委との連携）
1月	・PTA研修会開催（道外視察研修報告）
2月	・小中一貫教育北海道フォーラムへ出席（札幌市） ・第4回中標津町教育力向上推進委員会開催（来年度の活動計画について等） ・実績報告書等の作成、提出
3月	・中標津町の小中一貫教育、ロードマップの周知

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

- ・中標津町の小中一貫教育の作成
- ・小中一貫カリキュラムの作成
- ・中標津町学習・生活規律スタンダードの作成
- ・小中一貫の学習方略及び系統図の策定
- ・小中一貫教育の普及に資する研修会開催
- ・道外視察研修報告書の作成
- ・小中一貫教育の普及に資する道外視察研修報告会の開催
- ・コミュニティ・スクールの導入
- ・児童生徒アンケートにおいて、勉強がわかるについて、肯定的な割合は平成28年度の90.0%から、平成29年度は92.0%で2.0ポイント上昇した。
- ・教職員アンケートにおいて、一人一人の学びを大切にしたい、わかりやすい授業に努めていますかについて、肯定的な割合は平成28年度の73.5%から、平成29年度は92.0%で18.5ポイント上昇した。
- ・保護者アンケートにおいて、お子さんは、授業の内容を理解していると思いますかについて、肯定的な割合は平成28年度の79.3%から、平成29年度は88.0%で8.7ポイント上昇した。

※ [取組Ⅱ] において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

- ・町内全ての中学校区への小中一貫教育の導入
- ・小・中学校の教員が互いの学校の教育課程を理解し、学力観、授業観の共通理解を図る合同教育研究会等の実施
- ・小学校と中学校の教育課程の系統性を確保するなど、教育活動全体を視野に入れ、小中一貫教育の取組の推進
- ・地域の実情を踏まえた目指す子ども像の実現のため、小・中学校が協働し、次期学習指導要領に対応した小中一貫カリキュラムの編成

※ [取組Ⅱ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。



## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－３

1. 市町村教育委員会等の名称 : 当別町教育委員会

住所 : 北海道石狩郡当別町白樺町  
58番地9

代表者職・氏名 : 教育長 本 庄 幸 賢

2. 取組の名称 : 当別町小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

学力向上に向け、小学校第6学年児童の中学校登校や中学校教諭による小学校への乗り入れ指導等、9年間を見通した教育活動を展開するとともに、平成28年度に作成した独自教科「当別みらい学」のカリキュラムに基づき、改善・充実に向けた取組を推進する。また、家庭や地域が連携して小中一貫教育を効果的に推進するため、各中学校区に「学校運営協議会」を設置する。

さらに、「一貫教育推進講師（非常勤）」の中学校区への配置や小中一貫教育懇談会の開催、保護者や地域住民を対象とした小中一貫教育に関する教育講演会の開催及び啓発資料の配付、小中一貫教育の質を高めるための教職員への効果的な研修（先進地視察を含む）などの取組を進める。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中一貫教育を補完する放課後や土曜日の教育活動の実施（～3月）</li> <li>「一貫教育推進講師（非常勤）」の配置（～3月）</li> <li>全国学力・学習状況調査の自己採点及び分析</li> <li>小中一貫教育懇談会の開催</li> <li>コミュニティ・スクール準備委員会の開催（当別地区・西当別地区）</li> <li>小中教職員交流会の開催（当別地区・西当別地区）</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員研修会の開催</li> <li>ほっかいどうチャレンジテスト（学期末問題）実施及び結果分析</li> <li>コミュニティ・スクール準備委員会の開催（当別地区）</li> <li>小学校第6学年の中学校登校</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力・学習状況調査の結果分析</li> <li>コミュニティ・スクール準備委員会の開催（当別地区）</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクール準備委員会の開催（西当別地区）</li> <li>小学校第6学年の中学校登校</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会の開催（当別地区）</li> <li>コミュニティ・スクール準備委員会の開催（西当別地区）</li> <li>北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席</li> <li>先進地視察の実施（白樺町）</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校第6学年の中学校登校</li> <li>学校運営協議会の開催（西当別地区）</li> </ul>

12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケート、児童生徒アンケート、保護者アンケートの実施（道教委との連携）</li> <li>・教職員研修会の開催</li> <li>・ほっかいどうチャレンジテスト（学期末問題）実施及び結果分析</li> <li>・小学校第6学年の中学校登校（当別地区）</li> <li>・学校運営協議会の開催（当別地区）</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会の開催（当別地区）</li> <li>・小学校第6学年の中学校登校</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育北海道フォーラムへ出席（札幌市）</li> <li>・中学校教諭による出前授業</li> <li>・教育講演会の開催</li> <li>・学校運営協議会の開催（当別地区・西当別地区）</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほっかいどうチャレンジテスト（学期末問題）実施及び結果分析</li> <li>・3年間の成果と課題のまとめ</li> </ul>

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

### (3) 取組の成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校区で9年間を見通したグランドデザインの策定及び全教職員が小中一貫教育に関わることができるよう組織を見直すことにより、計画的、組織的な取組を推進することができた。</li> <li>・全国学力・学習状況調査の各教科の平均正答率では、小学校では、全ての教科で、全国との差が1ポイント以内となり、中学校では、数学Bが全国を上回った。また、平成26年度小学校第6学年と平成29年度中学校第3学年の同集団による経年比較で、国語Aが1.5ポイント、算数・数学Aが4.3ポイント、算数・数学Bが9.7ポイント上昇した。</li> <li>・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査結果では、「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」と回答した児童生徒の割合が、小学校で6.6ポイント、中学校で12.2ポイント高くなった。</li> <li>・児童生徒アンケートから、学習や生活に不安を抱える児童が減少する等、学力向上や中学校進学への不安解消が見られた。</li> <li>・教職員アンケートから、教員の基礎学力保障の必要性に対する意識、小・中学校の教職員間で互いの指導方法等のよさを取り入れる意識等の高まりが見られた。</li> <li>・独自教科「当別みらい学」では、各学校の教頭・教諭及び教育委員会職員で組織する「カリキュラム部会」において、「ふるさと」「国際理解」「キャリア教育」の3点から学習内容を見直し、育てたい資質・能力を明確化するとともに、系統性を踏まえ、改善・充実を図った。</li> <li>・授業改善に関する教職員研修を実施し、小・中学校の教員が合同で話し合うことにより、9年間を見通した指導方法について理解を深めることができた。</li> <li>・児童生徒会が主体となり、小・中学校が合同で「いじめ撲滅集会」を行い、児童生徒の「いじめをしない、させない、見逃さない」という意識を高めることができた。</li> </ul>
--

### (4) 今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会を中心としたコミュニティ・スクールによる地域とともにある学校づくりの推進</li> <li>・独自教科「当別みらい学」の教科化に向けた取組</li> <li>・学習指導要領改訂を踏まえた小中一貫した教育課程の改善・充実</li> <li>・施設一体型の義務教育学校建設に向けた基本構想等の策定</li> </ul>
--

※〔取組Ⅱ〕における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

## 事業成果報告書

## 〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－４

1. 市町村教育委員会等の名称 : 旭川市教育委員会

住所	: 旭川市6条通8丁目 セントラル旭川ビル
代表者職・氏名	: 教育長 赤岡 昌弘

2. 取組の名称 : 「小中連携・一貫教育の基本的な考え方」を基にした小中連携の促進や将来的な小中連携・一貫教育の実現に向けた取組

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

旭川市小中連携・一貫教育推進プラン（以下「推進プラン」という。）を策定するとともに、中学校の通学区域を単位とした小中連携・一貫教育を促進する。  
また、モデル校である旭川小学校・旭川中学校に、小中連携コーディネーターを配置し、平成30年度の施設一体型における小中一貫教育の実施に向け、9年間を見通した教育課程の編成など、系統性・連続性のある具体的な取組を進める。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

6月	<p>【市教委】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携コーディネーター（非常勤嘱託）の配置</li> <li>・小中連携コーディネーターによる学校訪問の実施（年間を通して）</li> <li>・「推進プラン」のパブリック・コメントの集約</li> <li>・教育委員会会議における「推進プラン」の決定</li> </ul> <p>【コーディネーター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「9年間つなげてみよう教育活動シート」の実施状況確認と課題の把握</li> </ul> <p>【モデル校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育9年間を見通した教育課程の編成</li> <li>・全国学力・学習状況調査の自己採点及び分析、改善プランの作成</li> <li>・「生活の決まり」、「生徒指導の心得」の作成</li> <li>・教職員の兼務発令の活用による相互乗り入れ授業の実施</li> <li>・スケジュールに沿った取組の実施</li> </ul>
7月	<p>【市教委】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度旭川市小中連携・一貫教育推進研修会の準備や参加者の取りまとめ</li> </ul> <p>【モデル校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールに沿った取組の実施</li> </ul>
8月	<p>【市教委】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度旭川市小中連携・一貫教育推進研修会の開催</li> <li>・事業成果の取りまとめ（道教委との連携）</li> </ul> <p>【モデル校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スケジュールに沿った取組の実施</li> <li>・全国学力・学習状況調査の結果分析</li> </ul>

9月	<b>【市教委】</b> ・平成29年度旭川市小中連携・一貫教育推進研修会報告書の作成 ・小中連携・一貫教育推進Noteの配付 <b>【モデル校】</b> ・スケジュールに沿った取組の実施
10月	<b>【市教委】</b> ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席（札幌市） ・平成29年度「プラン実践シート」の取りまとめ（計画） <b>【モデル校】</b> ・スケジュールに沿った取組の実施 ・北海道「小中一貫教育推進事業」運営会議へ出席（札幌市）
11月	<b>【モデル校】</b> ・公開研究会の実施 ・スケジュールに沿った取組の実施
12月	<b>【市教委】</b> ・文部科学省報告書の作成（道教委との連携） <b>【モデル校】</b> ・スケジュールに沿った取組の実施 ・教職員アンケート、児童生徒アンケート、保護者アンケートの実施（道教委との連携）
1月	<b>【市教委】</b> ・小中一貫教育全国サミットへ参加（京都市） <b>【モデル校】</b> ・スケジュールに沿った取組の実施
2月	<b>【市教委】</b> ・小中一貫教育北海道フォーラムの発表資料作成及び出席（札幌市） ・平成30年度教育行政方針の発表及び市内全小・中学校への周知 ・平成29年度小中連携・一貫教育推進プラン実践シートの取りまとめ（実施） <b>【モデル校】</b> ・取組の成果と課題のまとめ及び次年度の方向性の決定 ・小中一貫教育北海道フォーラムへ出席（札幌市） <b>【コーディネーター】</b> ・モデル校の成果報告資料の作成、提出
3月	<b>【市教委】</b> ・平成29年度「プラン実践シート」の取りまとめ（実施後）及び検証 ・モデル校（旭川小学校・旭川中学校）の成果報告書の市内全小・中学校への配付 <b>【モデル校】</b> ・スケジュールに沿った取組の実施

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項（会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など）については、必ず記載すること。

## (3) 取組の成果

- ① 小中連携・一貫教育導入期（1年目）として、「推進プラン」を基に、市内全小・中学校で9年間を見通した系統的な教育活動を進めた。  
 ア 平成29年6月に「推進プラン」を策定し、全中学校区で取組をスタートした。  
 イ 平成29年度旭川市小中連携・一貫教育推進研修会（各中学校区の事例発表）
- ② 「教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校・小学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っている」の質問に対して肯定的な回答をする学校の割合について、中学校66%、小学校67%以上にするという目標に対して、中学校は75%で目標を達成し、小学校は57%で達成できなかったが、前年度の52%を上回った。（基準値H25 中学校62%、小学校63%）
- ③ 「自分には良いところがあると思う」の質問に対して肯定的な回答をする児童生徒の割合について、中学校67%、小学校77%以上にするという目標に対して、中学校68%、小学校78%で目標を達成した。（基準値H25 中学校62.6%、小学校73.3%）
- ④ 「授業の内容(国語)はよく分かると思う」の質問に対して肯定的な回答をする児童生徒の割合について、中学校75%、小学校86%以上にするという目標に対し、中学校は78%で目標を達成し、小学校は85%で達成できなかったが、基準値及び前年度の84%を上回った。（基準値H25 中学校70.5%、小学校82.2%）
- ⑤ 「授業の内容(算数、数学)はよく分かると思う」の質問に対して肯定的な回答をする児童生徒の割合について、中学校76%、小学校84%以上にするという目標に対し、中学校67%（67.4%）、小学校80%で達成できなかったが、中学校で前年度の67%（66.9%）を上回った。（基準値H25 中学校71.7%、小学校79.7%）
- ⑥ 特別支援教育に関しては、北海道教育委員会作成の資料等を活用し、市内全ての小・中学校が授業参観交流や教育相談などの取組を実施したことにより、児童生徒の円滑な接続を行うことができた。市内のある中学校区では、小学校6年生と中学生との交流活動を実施し、児童や保護者の中学校生活への不安感を解消するとともに、期待感を醸成することができた。また、中学生にとっては、リーダーシップを発揮する活動となった。
- ⑦ 「平成29年度第12回小中一貫教育全国サミット in 京都」に参加して、先進的な取組を調査研究した。
- ⑧ 市教育委員会に小中連携コーディネーターを配置し、協力校に定期的に派遣して次のことに取り組むことにより、協力校の取組が促進した。  
 ア 小学校と中学校で共通に設定した年度の重点目標等に基づき、取組を具体化したロードマップを作成した。また、校内研修を一本化したことに伴い、互いの教育課程を整理して、キャリア教育に関する9年間を見通した教育課程を編成した。  
 イ 小中合同のボランティア活動や部活動交流などの企画や乗り入れ授業の日程等を調整した。また、取組の記録や児童生徒アンケート調査を集約し、教職員に周知した。  
 ウ それぞれの学校における学校評価と合わせて、「小中連携・一貫教育」に関わる教職員アンケートを実施・結果分析するとともに、分析結果をまとめ、全教職員に配付するなどして、次年度の取組につなげた。
- ⑨ 協力校では、合同で校内研修を実施してキャリア教育を推進したことにより、全国学力・学習状況調査において、次のような成果が見られた。  
 ア 旭川中学校では、「授業の内容(国語)はよく分かると思う」の質問に対して肯定的な回答をする生徒の割合について、75%以上にするという目標に対し、79%で目標を達成した。また、「授業の内容(数学)はよく分かると思う」の質問に対して肯定的な回答をする生徒の割合について、76%以上にするという目標に対し、71%で達成できなかったが、前年度の63%を上回った。さらに、家庭学習を全くしない生徒が減少（H27 10.0%、H28 6.5%、H29 5.9%）するなど、学習習慣の定着が図られるとともに、自分には良いところがあると回答する生徒が増える（H27 73%、H28 77%、H29 82%）など、自己肯定感の高まりが見られた。  
 イ 旭川小学校では、将来の夢や目標を持っていると回答した児童が増えた。（H27 85%、H28 87%、H29 91%）

※ [取組Ⅱ] において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

- 小中連携・一貫教育導入期（平成29～31年度）として、「推進プラン」を基に、市内全小・中学校で9年間を見通した系統的な教育活動を進める。
- ① 全中学校区での小中連携・一貫教育推進プランに基づいた取組の促進
    - ア 各学校が自校の教育重点目標に中学校区の目標を位置付け、学校体制を整備して取組を促進することができるようにする。
    - イ 目標に数値目標を位置付け、教職員が取組の成果を実感できるようにする。
  - ② 平成31年度からスタートする次期旭川市学校教育基本計画の策定
  - ③ 施設一体型の学校の開校（旭川小学校・旭川中学校）
  - ④ 旭川市総合教育会議（次期旭川市教育大綱の策定）―首長部局との連携
  - ⑤ 小中連携一貫コミュニティ・スクール（仮称）の導入

※ [取組Ⅱ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。